

伝えたい
残したい
わがまちの
誇り



小山田地区
Oyamada



1



4



3



2

ふるさと の情景

VOLUME

11

小山田地区
(小山田納涼盆踊り大会)



1盆踊りの様子2盆踊りが始まる前に花火が打ち上げられる3毎年河内家菊水丸さんが来場し、音頭をとるのが恒例となっている4食べ物や当てものなどたくさんの夜店で賑わう会場

※小山田コミュニティーセンターへは千代田駅より南海バス東峰下車徒歩3分。

現

在の盆踊りの原形は、室町時代に生まれた風流踊りとされています。この踊りはお盆の時期に多く行われたため、先祖の霊を迎えて供養するという意味があったと考えられます。江戸時代には先祖供養の意味に加えて、人々の交流の場としての役割も果たすようになりました。

か

つて市内の盆踊りの会場は、神社や寺院の境内が中心でした。しかし、近年ではニュータウンの開発にとれない、よりたくさんの方が参加できるように公園や公的施設で開催されることも多くなりました。

小

山田地区の盆踊りも、住人の交流機を作するために消防団が提案したのが始まりです。同時に設立された小山田青壮年会をはじめとした地域の人々によって平成11年に第1回の盆踊りが開催され、現在に至ります。小山田コミュニティーセンター(あやたホール)はたいへんな賑わいをみせ、人と人との絆、人と地域のつながりを深める役割を担っています。

ふるさと のひと

西端高志さん

小山田青壮年会がはじめた小山田納涼盆踊り大会は、今年で19年目となります。毎年、木製櫓を自分たちで組み立て、提灯を手分けて飾るなど地域で協力して開催しています。そのことで、住民同士の親睦がはかれるとともに、地元への愛着も深まっているのではないかと思います。夜店や花火の打ち上げもありますので、来年(7月の最終土曜日)の盆踊り大会には、ぜひお越しください。

